

『秀明大学紀要』投稿規定

2022年7月6日

秀明大学 紀要編集委員会

【目的】

秀明大学における教員等の教育・研究成果を広く社会に発信し、学術の向上と発展に寄与することを目的として、『秀明大学紀要』を発刊する。

【投稿資格】

『秀明大学紀要』への投稿資格を有する者は、以下の通りである。

- (1) 秀明大学専任教職員
- (2) 秀明大学兼任講師
- (3) その他、『秀明大学紀要』編集委員会が認めた者

【投稿できる原稿の種類】

本紀要が掲載する原稿は、以下の通りである。

論文 (日本語は16,000-20,000字／英語はダブルスペースで6,200-7,700ワードとしTimes New Roman使用でフォントを10.5-11.0Pt.)

教育実践報告・研究ノート (日本語は8,000-12,000字／英語はダブルスペースで3,000-4,600ワードとしTimes New Roman使用でフォントを10.5-11.0Pt.)

- (1) 投稿後、査読に値すると編集委員会が判断した原稿に対して、編集委員会は学内より審査委員(1名)を「主査」として指名する。「主査」は、審査にあたり編集委員会と協議の上、さらに学内外から審査委員「副査」(1名)を選ぶ。「主査」及び「副査」の審査報告に基づいて編集委員会が掲載の可否を審議し、その結果を踏まえて学長が決定する。審査結果は、投稿後おおむね2ヶ月を目途に執筆者に通知するものとする。
- (2) 上記「主査」及び「副査」は、原稿を査読し、各々以下の基準に従って評価を行なう。
 - A:「掲載可」
 - B:「一部修正を条件として掲載可」
 - C:「掲載不可」
- (3) 編集委員会は、上記2名の評価に基づいて掲載の可否を審議する。なおその際の判断基準を以下のように定める。
 - AA (審査委員2名がともに「A」評価とした場合):「掲載可」
 - AB・AC・BB・BC (審査委員2名の評価が異なるか、ともに「B」評価とした場合):「一部修正および再査読を条件として掲載可」
 - CC (審査委員2名がともに「C」評価とした場合):「掲載不可」

- (4) 自然科学分野の論文の場合、上記規定より短い原稿も認める場合があるが、掲載の可否に関しては前項規定に準ずるものとする。
- (5) 制限字数は、いずれも本文・注・参考文献・図表・写真・統計表等(別途作成)・改行に伴う余白などを含む。なお図表・写真・統計表などを含む原稿は、全体の分量が1頁あたり1600字換算で10-13頁(論文)・5-8頁(その他)に収まるようにする。
- (6) 投稿原稿は、編集委員会が別途指定するメールアドレスにPDFないしはMS Word形式で提出する。その際、著者の氏名、所属、謝辞ほか著者を特定できる事項を、文字数を変更することなく隠す処理を投稿原稿に対して施した原稿も併せて提出する。紙媒体での提出は認めない。

【投稿の制限】

本紀要に投稿できる原稿は1年につき1編までとする(共著も含む)。また他の刊行物との二重投稿は認めない。

【その他】

- (1) 『秀明大学紀要』に掲載が決定した原稿の著作権は秀明大学に帰属する。
- (2) 原稿執筆者は掲載決定時点で、「秀明大学リポジトリ」に基づく原稿の公開について、すべて承諾したものとする。
- (3) 原稿料の支払いは行なわない。

【投稿手続】

- (1) 投稿を希望する場合、まず「紀要論文投稿エントリー」にて応募手続を取る。その際、投稿者の氏名・所属・連絡先(メールアドレス)、および原稿の種類・題名(仮題でも可)・およその分量(「40字×40行で12頁」、「合計19,200字」等)を明記する。
- (2) 「エントリー」の日程や方法については、編集委員会より別途連絡する。
- (3) 原則として、投稿の締め切りは9月末日、紀要刊行は3月末日とする。

【問い合わせ先】

〒276-0003 千葉県八千代市大学町1-1 秀明大学
『秀明大学紀要』編集委員会 西村治

『秀明大学紀要』20号編集後記

今回の発行では4本の論考が掲載されています。例年と比較して本数は少ないのですが、お陰様で紀要担当を務める小生は助かりました。不謹慎なことを申し上げて失礼なことですが、その分、投稿くださった先生方への感謝の気持ちをしっかりと形にして、ここに残したいと存じます。

大山先生、長岡先生の教育実践報告には、学習者が成長するにつれ総合的な教育の難しさが増してくる様子が記されており、山本先生の論文には、大学における留学生教育に立ちはだかり続ける手強い課題が複数報告されています。果たしてこれらに対して答えを持つ教員側の人間がいるのかと問われれば、おそらくこの問いの立て方そのものが誤っているのでしょう。強いて言えば、教える側が様々なアプローチを探求し続ける姿、これを見せることが答えになるのであらうと思いついた次第です。また、黒澤先生、長谷川先生の論文を拝読しますと、奇しくも両論考に代を継ぐことの難しさが記されています。きれいにバトンを受け渡すためには、その場面の周囲に整備されるべき状況が無いのか、これを意識することが重要であると言えそうです。

大学の教育スタッフが各々の課題を見つけ、そこに探究的な貪欲さを以てアプローチをあきらめないこと、そしてお互いの姿を参考とし協働することによって、大学という場を高めること、これら2つの点を改めて認識いたしました。

4つの作品を1つの論文集に収めるに当たり、このご挨拶がそれなりの結びとなりましたら幸甚です。ご投稿いただいた先生方および本紀要論文集をお読みくださった方々に、深くお礼申し上げます。

令和5年3月吉日

『秀明大学紀要』編集委員会

西村治・大城嘉規・田中元・田島博之・松本紗知恵

秀明大学紀要 第20号

2023年3月31日発行

発行所 秀明大学

〒276-0003 千葉県八千代市大学町1丁目1番地 電話 047(488)2111

代表者 川島幸希

印刷 (有)ダイキ 〒136-0071 東京都江東区亀戸7-12-9

©禁転載